

大阪府ヒートアイランド対策推進計画（平成16年6月策定）

目標1 | 住宅地域における夏の夜間の気温を下げ、2025年までに夏の熱帯夜数を現状より3割減らす。

目標2 | 屋外空間にクールスポットを創出し、夏の日中の熱環境の改善を図り、体感的な温度を下げる。

このうち、夜の寝苦しきの解消に向けた対策が重要です。

大阪ヒートアイランド対策集中実施促進事業 （熱環境マップの作成等）（平成17年度）

- ヒートアイランド対策推進計画における優先対策地域を中心に、航空機から地表温度を夜間に測定し、ヒートアイランド現象の実態を把握します。
- 次に、人工排熱データ、土地利用データなどを加味して、熱環境（熱負荷特性）マップを作成します。
- このマップから地域における放熱の特性と大きさの程度がわかりますので、地域に適したヒートアイランド対策を実施するにあたり、基礎資料として活用します。

- 熱環境を総合的に見るには、「熱環境（熱負荷特性）マップ」「夜間の熱画像」「風向／風速／気温図」が必要です。
- 夜間の熱画像では地表面温度が高いものの、気温図（午前5時）では気温が低下している地域が見られます。これらの地域では緊急的なヒートアイランド対策は必要ないと考えられます。
- また、大阪市域、北大阪地域、東大阪地域を中心に気温があまり低下しない地域が広がっています。

大阪ヒートアイランド対策集中実施促進事業 （ヒートアイランド対策ガイドラインの作成）（平成18年度）

- 今後、これら3種類の図面をもとに、各地域で発生する熱の大气への影響の程度や地域の土地利用の動向等も勘案し、対策を行う区域を絞り込んでいくとともに、熱環境（熱負荷特性）マップに示される地域特性ごとに、最も適したヒートアイランド対策をまとめた「ガイドライン（対策指針・技術マニュアル）」を作成します。